

COSMORAMA

2002 March

63



希望館夜景



本学情報教育をサポート ティーチング・アシスタント(TA)の みなさんに日頃の活動を 聞きました

司会 情報教育センターの支援作業量が年々増え、ティーチング・アシスタント(以下、TA)のみなさんの協力なくしてたくさんの人からの質問や相談に答え、いくことができない現状となっています。まずTAのみなさんの日頃の仕事内容について聞かせてください。

田野上 コンピュータ全般について学生・教職員・事務へのサポートです。メールができないといったものから大学ホームページの更新、大学のシステム変更に伴うパソコンやプリンタの整備など幅広く活動しています。最近は大学だけでなく自宅でもインターネットに接続する



加藤直樹さん
(理学部4年)

田野上 尊さん
(経済学部4年)

榎本真吾さん
(外国語学部2年)



COSMORAMA
MARCH 2002 **63**

CONTENTS

Interview

- 1 本学情報教育をサポートするTAに聞く
Topics
- 2 新たな国際交流プログラムをめざして
～国際交流政策会議報告から～
- 3 利用される図書館に
中田晴美
- 4 生き方としてのボランティア
古橋敬一
- 5 初の博士課程 これからの大学院
矢澤めぐみ

Essay

- 6 シリーズ⑩ 「コーシンと歩く瀬戸の街」
せと・ルネッサンス
木村光伸
- 7 シリーズ⑩ エッセイ
教育の原点 矢澤雅

Campus Now

- 8 私の講義日誌 三井哲
- 9 サークル短信
文化会「E.S.S.」
体育会「日本拳法部」
- 10 チャペルのかたすみで④
「聖書:ネヘミヤ記を含む聖書」について
山田直義
- 11 2001年度課外活動報告/2001年度の動き

Information

- 12 堀教授、小野教授が最終講義
学長表彰を11名に授与
キャンパス環境がますます充実
英語・中国語スピーチコンテスト入賞者
2001年度父母会卒業記念事業
モニュメントを授贈
2002年度父母懇談会ご案内
2002年度資格講座案内
行事予定 4～5月

COSMORAMA(コスモラマ)の由来

「宇宙」や「世界」を表すCOSMOS(コスモス)とPANORAMA(パノラマ)との合成語。19世紀にロンドンの街角でしばしば行なわれた世界各地の様子をのぞきみせるショーの名称として使われたのが最初。世界の動きに興味を持ち、大きな視点に立ってそれを見渡すことができるようにとNGU NEWSの愛称に採用しました。



司会の星和徳情報教育センター事務室長(右)とTAのみなさん

人が増えてきて、それぞれのインターネット接続環境で設定がまちがうためにインターネットができなかったといった相談が多いです。その他、昨年から始まったインターネットでの履修登録や、パソコン講習会のお手伝いもしています。

司会 みなさんの活動にはとても助かっているところですが、日頃の多様な相談にこたえていくのは大変だと思いますし、要求されるスキルも高度なものになってきていると思います。どうでしょうか。

榎本 そうですね、1人1人パソコンのスキルレベルがちがうので、TA全員がいろんな相談に対応できるように自分の得意な分野から徐々にスキルアップしていくようにしています。私は画像関係が得意ですが、偏った知識とならないよう

に現在プログラム言語を習得中です。

加藤 情報教育センターにはいろんな資料やソフトがあるので、スキルを向上させようという意欲や興味があればどんな知識を増やすことができます。今はいろんな質問に答えることができますようになりました。

司会 TAのみなさんの技術力は充分な力がついてきているようですが、逆にサポートを必要とする利用者のレベルはどうでしょうか。

榎本 メールやホームページの質問はそれほどないのですが、学生は大学ではネットワークを1ヶ月利用しないという学生が多いということがあります。また、わからないため、レポート提出間際になってプリントできないと言ってくる人が多いです。

加藤 先ほどの接続設定のトラブルはインターネットの仕組みが理解できていないために起こる問題ですから、まだそういった知識が足りないと思います。

田野上 自宅での接続設定はそれぞれ契約しているプロバイダ毎に違っていて対処しきれないところも出てきます。

司会 TA制度発足の目的は、メールの送受信やホームページの閲覧ができるなどパソコンスキルの全体的なポイントアップということでしたから、その点はクリアされたところがあるという状況のようですね。

現在、情報の収集や仕分けなど、どのようにパソコンを活用していくのかということが

求められています。本学の情報教育を進めていく上での他意見はありますか。

田野上 情報倫理教育がこれから重要になってくると思います。

加藤 学生は授業でパソコン操作を覚えてもそれっきりという人がたくさんいるので毎年利用するようにしていかないといいと思います。

榎本 パソコンを使うのが怖いと言っている人もいます。

田野上 ITが生活に浸透しつつありますが、そこに潜む危険にも認識を深めてもらうため不正アクセスやセキュリティについての知識も必要だと思っています。

司会 パソコンを使って何をするのかという点を自分自身で見つけてどんどん使っていくようになってほしいし、また、継続的にパソコンを使用するような仕組みも検討していかなくてはならないですね。

それでは、みなさんはいつ頃パソコンに触れたのでしょうか、興味があったきっかけを教えてください。

TAとなりそれから幅広い知識がつくようになりました。

司会 最後に学生の立場であるTAのみなさんから同じ学生のみなさんへ伝えたいことはありますか。

榎本 せっかくノートパソコンを1人1台持っているわけだから自分でいろいろとやってみてほしいです。

田野上 そうですね。パソコンを全員が持っているのは他大学にはない特徴です。ワープロソフトや表計算ソフトを習得できればそれでよしとするのではなく、それらができて次に何ができるようになるのかということが求められているのではないのでしょうか。

加藤 質問や相談に来る人は、わたしたちTAのところに駆け込んでなんでもやってくれと思っているけど、自分ですらしてこうなるのか考えるようにしないと身につかないということもわかってもらいたいです。パソコンは最初難しいと思う人が多くいますが、わかればそれほど便利で面白いツールはないと思いますので、是非学んでほしいですね。

司会 TAの立場は裏方でありながらも、同じ学生や講義を受けている先生を相手に様々な質問や相談を引き受けるわけですから困惑する場面も多いと思いますが、日頃からパソコンのスキルアップに努めて大学の情報教育に大きく貢献してくれていることに感謝しています。今後ともよろしくお願いします。本日はありがとうございました。



留学プログラムおよび留学生別科での重点的取組み

- ① プログラムの質的・量的充実のための制度・内容の見直し、改革の推進
- ② 留学プログラムの学部枠の廃止
- ③ 各コースの特色・目的の明確化
- ④ 体験型 a 語学研修型
- ⑤ 短期留学における取得単位のより柔軟な認定
- ⑥ 引率者の外注も選択肢の一つとして考える
- ⑦ 引率者不足に対して、引率可能な教員の全学部登録制とする
- ⑧ 引率アシスタントについては、参加人数、内容に見合ったものとする
- ⑨ 事前・事後のオリエンテーション、現地での活動、改善点の発見等「留学実施報告書」の作成
- ⑩ 留学を出発前、留学中、帰国後までの有機的に結んだ教育プログラムとして捉える
- ⑪ 一セメスターにおける講義と短期留学の組み合わせにより、さらに教育効果を上げる
- ⑫ 中国、タイ以外のアジア圏における新たな留学プログラムを検討する
- ⑬ 中期留学プログラムを経済学部、商学部でも導入を検討する



31番目の協定校 コンケン大学

コンケン大学はタイ北部で最初に建てられ、同地方の高等教育の中心的役割を担っています。16の学部、大学院、いくつかの研究機関から構成されており、学生数は約16,800人。

- ② 大学加入の保険として、旅行事故対策費用保険および海外旅行傷害保険とする
- ③ プログラムの質的・量的見直しにより、在学生の10%が留学体験学生となるようめざす
- ④ 海外留学体験という学生のキャリアを生かす帰国後の教育環境を整備する
- ⑤ 留学生別科私費留学生の学部編入をすすめる
- ⑥ 教職員のスキルアップと国際交流センター機能の充実



32番目の協定校 ボーリング・グリーン大学

ボーリング・グリーン州立大学はオハイオ州北部、五大湖の一つエリー湖に近いボーリング・グリーンにある総合州立大学で約17,000人の学生が学んでいます。2002年度から学生の交換が始まる予定です。7月には日本短期留学のグループが本学に滞在予定となっています。すので、皆さんと交流する機会があると思います。

プログラムや制度の地域への開放

- ① 社会人が国際交流センターの実施する特別講座や短期留学に参加できるようにする
- ② 海外協定校との共同プログラムの開発をすすめる、多様な国際交流をすすめる
- ③ 地域社会（自治体、学校、各種団体）からの要請に積極的に対応する

学生の経済的支援の充実

- ① 協定校私費留学参加学生の授業料の一部減免を検討する
- ② プログラム内容の見直しにより留学経費が低くなるよう努める

新たな国際交流プログラムをめざして

～国際交流政策会議報告から～

名古屋学院大学は、これまで国際交流を大学の特色のひとつとして位置づけ、留学制度の充実を図り、多くの学生を協定校に留学生として派遣するなど実績をかさねてきました。

しかしながら、国際交流活動が多様化するなかで、新たな問題点、取り組むべき課題もでてきております。このほど本学の国際交流のあり方を検討していた「国際交流政策会議（議長・学長）」から本学の国際交流プログラムについて提言がありましたので、概略について紹介いたします。

交換協定大学の見直し

- ① 協定校を4校（現在33校）ほどとして、新規協定校の開拓を行うとともに、交流実績のない大学のリストアップを行う
- ② 派遣する学生の英語力の低下、インバンスから新規協定校の開拓を急ぐ
- ③ 留学生別科のカリキュラムの改善充実
- ④ 日本語が上位クラスの外国人留学生には学部開講科目の履修をすすめる
- ⑤ 外国語学部日本語教員養成プログラムとの連携を緊密に保つ
- ⑥ 国際セミナーハウスに入居する日本人学生（レジデンス・アシスタント）の役割を見直す

33番目の協定校 東義大学校

東義大学校は本学にとって初めての韓国における協定大学です。釜山市内の小高い山にある私立大学で約15,000人の学生が学んでいます。2002年度の夏季短期留学はこの東義大学校でも実施される予定です。韓国がブームとなっていますが、韓国文化、韓国語に関心を持つ学生はぜひ夏の短期留学に参加してください。



利用される図書館に

中田 晴美
(図書館主任)



■アメリカナの貴重書
The Lincoln memorial / edited by John Gilmory Shea.
New York : Buncie & Huntington, 1885.

●コレクション

開学以来、本学図書館は寄贈による圖書の収集に力を注いできました。いわゆる灰色文献といわれる入手のむずかしい資料を、多く所蔵しています。会社史・経済団体史もこのひとつで、積極的に収集しています。国内資料は約4,000冊所蔵していますが、今年度ドイツの会社史500冊が加わり、コレクションの範囲を国外へと広げました。

そのほか、米国の古書店から入手した資料を基礎とするアメリカ研究コレクションがあります。このなかでも、質および量が充実しているのが伝記資料で、歴代大統領に関する資料が多く含まれます。未整理資料もあわせると、15,000冊ほどのコレクションになる予定です。

●新しい試み

今年度、図書館では「図書館行動委員会」(Library Action Committee 通称: LAC)という委員会を立ち上げました。ここでは、利用者の意識改革、興味の対象を開発するための「ハウツーワークショップ」を企画し、下の表のような内容で実施しました。

来年度も、みなさんの意向を聞きながら、新たな企画を行っていきたく考えています。

■第2回ハウツーワークショップ



●利用のために

2002年10月、国立国会図書館開館100周年を機に、国立国会図書館のサービスが大きく変わります。とくに、ホームページを通してのサービスが拡充され、明治以降の国立国会図書館の蔵書と、雑誌記事索引の全データが無料で検索できるようになります。このことは、インターネットの環境があれば、図書と雑誌論文を調べるという、基本的な資料調査がどこからでもできることを意味しています。本学の所蔵も、蔵書検索で調べれば瞬時にわかります。資料を探すまでの時間と費用は、格段に縮まります。

問題はここからです。求めている資料

◆ハウツーワークショップ内容

第1回	10月31日(水)	チロルの歩き方	小野 耕男 [外国語学部教授]
第2回	11月14日(水)	台湾高地先住民をみる眼 : 旅歴・異文化生活の歴史人類学	中村 勝 [商学部教授]
第3回	12月12日(水)	ヨーロッパ・中欧の「東」への誘い : 一人旅の面白さ	家本博一 [経済学部教授]

●広く社会へ

図書館の一般公開は1974年より始まりました。現在180名の方が利用登録され、なかでもアメリカ研究資料は興味深いコレクションとして喜ばれています。

本学にある貴重な資料は、今後もインターネットで情報を公開し、学術文化を社会に提供するという役割を果たし、多くの人から利用される図書館でありたいと思います。

が本学に所蔵されているかどうかです。「なければ、よそから借りれば」という声もあります。たしかに、図書館では相互協力によって、他の図書館から圖書を借りたり、文献複写を依頼することもできます。しかし、それには「他館の図書は館内で利用」といった利用上の制約や、郵送料金などのコスト負担、そしてなにより申込から到着までの時間がかかります。インターネットにより資料を探す時間が縮まっても、現物を入手するのに時間を要しては、学習意欲も減退してしまうでしょう。

必要とした時に、資料がこの図書館に利用できる状態で「在る」ことが大切で、それが次の利用へつながり、信頼関係を築くことになるのだと思います。図書館は今後も、みなさんのニーズに合った資料を収集するとともに、電子媒体による情報提供についても充実させたいと考えています。

記憶や想い出というものが、なにかしらの幸せなきけに倅って、わたしたちの心の中に蘇っていくこと、皆さんにもきっと経験があるだろう。それらの記憶に、色がつき、音の世界が広がり、映像として動き出すまでの刹那の瞬間、そんな瞬間が、私はたまらなく好きだ。そして、そんなイメージの反響が新しいアイデアを運んでくれる。それは、過去のものではあるけれども、ここ一番を突き抜ける大きな力を、いつも私たちに与えてくれる。胸の奥から取り出してみたり、かぶった埃を払ってみたり、ちよびり誇りにむせてみたり、誰しもがお気に入りの写真を知らずと携えているのではないだろうか。昨年の12月、そんな思い出の写真を胸に刻んだ学生たちがいる。

2001年12月1日～5日にかけて、東京代々木で開催された「青年ボランテア世界会議2001」(参加者合計467名(海外140名、国内327名))は、2001ボランテア国際年を記念して、世界規模のボランテア会議を青年が主体で執り行う初の試みとして注目を浴びた。同会議において、名古屋学院大学まちづくりNPO人コミュニティ倶楽部のメンバーは、まちづくりをテーマとする分科会を担当し、新たな交流の輪を広げてきた。

当日は、人コミュニティ倶楽部の提唱するまちづくり理念である「市民社会の構築」というテーマを強く意識し、学生の価値観、教員や産業などとの協働、商店街の活性化事例、教育立場からの地域貢献など、多角的な視点からまちの活性化を実現させていくプロセスが論じられた。また、国内

外を含めたそれぞれの地域で熱心に活動している参加者との情報や意識の共有化、新たな仲間との開拓など、充実したネットワーキングの場も図られた。会議室の舞台は小さくとも世界標準である。しかし、学生たちは、少しも臆することなく会議の運営をこなし、ユーモアあり、真剣な語らいの裏面に隠れている分科会をやつてのけた。コーディネーターとは名ばかりで、裏方裏での雑務に終始していた私であったが、そ

生き方としての ボランテア

青年ボランテア世界会議 2001から学ぶ

古橋敬一

(大学院経済経営研究科経済学専攻)

それだけに各分科会の評判もしつかりと伝わってきた。まちづくりの分科会の評判は常に高く、後輩たちのがんばりにとれだけ励まされたことかもしない。

会議の中でスピーチに際し、私はこんな呼びかけをした。「スタッフのみんなも立ってもらえますか?」台本にない出来事にメンバーの学生達は戸惑いながらも参加者の輪を取り囲むように立ち上がった。「さて、みなさん。私は、コーディネーターとして彼らのことを本当に誇りに思っている

のです。いいですか、彼らは、さほどの経験も持ち合わせていない1分の学生達です。しかし、こんなにも素晴らしい分科会を作りあげてくれました。はい、ではスタッフのみんな! 昨日12時に寝ることができた人?」

メンバーの中からは、誰一人として手が挙がらない。

「それじゃあ、1時に寝た人? それでは2時?」

学生たちの手は一向に挙がらず、にこに



こと笑いながら、参加者たちを見つめている。

「おい、おい、冗談だろう?」

「どうなつてんだ?」

参加者たちからだんだんと声が上がってきた。結局、最後に手を挙げたメンバーは一睡もしていなかった。すべては会議の準備のためである。

「今日のこの日のために、こんな日を彼らは、数週間も続けてきたのです。学校やアルバイトがなかったわけでは、もちろんありません。それぞれの活動だって、立派に

こなしてきたのです。不可能といえは、一切が不可能だったと思います。でも、彼らは見事にやつてのけました。そんな彼らを私は誇りに思います。」

会場からは、大きな拍手が沸き起こった。ボランテアとして志願するものは、すべての困難を乗り越えていく。彼らはそのことをしつかりと証明してくれたように思う。挑戦に際して私がいつも考えることは、結果はどうあれ、過剰な時間は確実に存在するということだ。そして、

私たちの人生において、本当に意味を持つてくるのは、その過剰して来た時間の方なのである。

この会議を通して、私たちが学んだもの、それはこの「生き方としてのボランテア」である。自らが主体的に行動する中で、プロセスを大切に、与え与えられるの関係を積極的に生きていくこと。これからの時代にかまえるべき姿勢のように思う。私たちの活動である、まちづくりとは、そこに暮らす人々が元気になるための諸々の貢献活動である。

ならば、そのことを主体的に進めていく市民(ボランテア)のスクラムが必要になってくる。それが、いわゆる非営利組織団体(NPO)である。つまり、そのまちのために、引いては自分たちの暮らしのために自らが主体的に取り組む、ボランタリーな生き方をする人々を養成していくことがまちづくりの大切な要素ともいえる。

会議終了後、みんなで一枚の写真に収まった。事あるごとに引き取り出すであろう、想い出の写真だ。

初の博士誕生 これからの大学院

矢澤めぐみ
(大学院事務部長)

2月2日、大学院経済経営研究科経営政策専攻博士後期課程を開設以来はじめての学位の授与(博士号の授与)が行われました。

今回の博士号は、課程修了による博士(経営学)の学位を、

太田国明さん

(博士3年、農田スチールセンター株式会社常務取締役)

学位論文名「コイルセンター経営のグローバルゼーション・コイルセンターのシステム変革の課題とマーケティングおよび再編の研究」

村瀬伸一さん

(博士3年、農田スチールセンター株式会社総務部人事室長)

学位論文名「中国、鄭鎮企業における人的

資源政策の改革に関する研究」

史自力さん(博士2年、中国河南財經大

学国際経済学部教授・大学院長)

学位論文名「中国における外資導入の

実態に関する研究」

の3人の社会人学生に、2001年11月30日付けで授与しました。

また、論文提出による授与者として、河村幹夫さん(多摩大学教授)

学位論文名「米国の商品先物市場の研究」

「CFTCの「規制・事由」拡大」思想」

(東洋経済新報社、2000年8月刊)

に、2001年12月25日付けで博士(経営

学)の学位が授与されました。

初めての学位論文の審査ということで、提出されてから半年から1年をかけ、予備審査、最終学力試験、本審査を慎重に行い、論文指導で倒れた教授がほとんどでした。また、審査教員委員会ではたびたび学問上の激論が交わされ、関係教授の熱心さに驚きを感じました。

式では学長が、「博士後期課程の修了者が誕生したことで、大学院として名実ともに完成しました。学位論文の内容もすばらしく、また、アジアに目を向けたものも多く、大学院の目指す道を示していると思います。今後は、社会人対象の大学院としてさらに多様な教授陣が求められることでしょう。皆さんもこの成果を社会でさらに発展させていってほしい」とあいさつし、ひとりひとりに学位記を手渡しました。

学位記を授与されたみなさんは、「研究をこれからもさらに深め、社会に貢献していきたい」と感激と今後の抱負を語っていました。式には、経済経営研究科長のほか、指導教授や大学院同窓会長も出席し、社会人と大学院生との厳しい両立の生活のなか、すぐれた論文を書き上げた4人を祝福しました。

大学院は、1997年に経済経営研究科経営政策専攻、経営政策専攻、外国語学研究科英語専攻の3専攻でスタートしました。翌1998年には中国語専攻、1999年には経営政策専攻博士後期課程、2001年には英語専攻としては全国初の通信教育課程を開設し、現在、社会人を中心に260人余りが学んでいます。社会人の受講の便宜を図るために昼夜間講義を採用し、夜間や土曜日を中心に開講しています。太田さんは、経営政策専攻博士前期課程(修士課程)の第二回入学生で、5年間の努力の末、今回の博士号を取得されたものです。

なお、大学院では「博士学位論文」内容の要旨および審査結果の要旨を発行し、内容を公表しています。また、太田さん、村瀬さんの論文は近々出版される予定です。

せと・ルネッサンス



きむら こうしん
木村光伸 (学 長)



瀬戸はやきものの町である。しかも常滑・信楽・越前・丹波・備前とともに六古窯のひとつにあげられる歴史的にも特上の窯業地である。千三百年の歴史があるともいう。現在は増岡錦也市長のもとで「せと・まるつとミュージアム」という構想のまちづくりに取り組んでいる。古くから地場産業で生きてきた町は大概どきどきもうだが、瀬戸もまた寂れた町並みが目立つようになった。とくに瀬戸の窯屋さんはトタンにスレート屋根というまことにシンプルにもお粗末な上屋が多く、それに追いつきをかけるように、窯業地名物レンガの煙突なんてほとんど消滅してしまっているから、どこが瀬戸らしきなのか、「瀬戸学入門」創始者の僕にもよくわからない。

瀬戸もまた寂れた町並みが目立つようになった。とくに瀬戸の窯屋さんはトタンにスレート屋根というまことにシンプルにもお粗末な上屋が多く、それに追いつきをかけるように、窯業地名物レンガの煙突なんてほとんど消滅してしまっているから、どこが瀬戸らしきなのか、「瀬戸学入門」創始者の僕にもよくわからない。

最近では産業観光こそがそういう地場産業の行き詰まった町を再生する特効薬のようにいわれる。たしかに名古屋近辺でも明治以来と思われる工場跡を産業博物館にしたり、市民の散策コースに取り入れたいして、人気を呼んでいるケースが少なくない。赤レンガが木立の緑に映えて、

最近では産業観光こそがそういう地場産業の行き詰まった町を再生する特効薬のようにいわれる。たしかに名古屋近辺でも明治以来と思われる工場跡を産業博物館にしたり、市民の散策コースに取り入れたいして、人気を呼んでいるケースが少なくない。赤レンガが木立の緑に映えて、

ちよとした風景を演出してくれたりするのである。しかし古ければどこでもいいというわけでもない。僕も産業観光推進派の一人ではあるが、そのためにはたつた二条件がある。それは観光の対象たる産業がいまも生き生きと活動していること。最近知ってビックリしたことに、観光客が二日間五十万人もやってくるという、あの秋の「せともの祭」で売られる膨大な「やきもの」のうち、「せともの」が占める割合はせいぜい二十パーセントほどなのだ。うだ。あとは他産地や中国あたりから入ってくるらしい。八十五年のプラザ合意あたりの円高で輸出がさっぱり振るわなくなったのが、瀬戸沈没ストーリーの始まりらしいが、本当の原因は他にもあったに違いない。

瀬戸の窯屋さんと職人さんたちは月にたった二回の休みで、それこそ昼夜なく働いて、膨大な商品を焼成してきた。でも自分たちがどんな商品を世に出したいのかという点では、積極的であったとはいえない。というより、注文された物を他所よりも一円でも安く、納期は確実に生産することでマーケットの信頼を得てきたのであろう。やがて時代が変化して、どんな業界にも企業イメージのブランドとしての特色だのということが求められるようになる。瀬戸の業界は急速に冷え込んでいった。安い中国製品との価格競争に負けたり、安価な人件費を求めて海外へ工場展開し、瀬戸を空洞化したのもまた瀬戸の業界自身ではなかったか。何でも

作れるという姿勢がブランドとしての位置づけを怠る結果を招いたのではなかったか。こんなことは今更のように素人の僕が言い立てなくても業界の方々によく承知しておられる。だから瀬戸の再生を願う気持ちだけは瀬戸の町中に充満しているといつてよい。それなのに、どうして瀬戸活性化の道はなかなか開かれないのか。その理由はただひとつ。瀬戸をどんな町にしたのかという具体的なポリシーが欠けているのである。十年以上前から、瀬戸の人は万博に期待をかけてきた。万博がきたら何かが始まるだろうとでもまた待っていて、なんにも起らないのだ。この機会に瀬戸を、地場産業としての窯業を、「やきもの」をベースにした日本文化を、どのように再生し、復活させれば、瀬戸は復興するのか。産業観光を「せと・ルネッサンス」に生かすために、僕たちはもうひと頑張りしなければならぬ。幸い僕たちの学生諸君は元気に商店街の再生に立ち向かってきている。この春には学内に学生主体のボランティアセンターも立ち上がる。万博やまちづくりや産業振興で、本学の先生方が指導・協力する場面も格段に増大した。社会人もほとんど大学を利用するようになりつつある。大学が社会と一体となって積極的に活動する時、地域の活性化と大学自身の再生は同時に成就する。名古屋学院大学は社会的実践を先導する21世紀の大学として、飛躍しなければならぬのだ。

「せと・ルネッサンス」はそこまでやっつけている。



Essay

教育の原点

やざね ただし
矢澤雅 (外国語学助教授 教職論・教育制度論担当)

島崎藤村の書いた「すなおな心」の中の「節に私に影響を与えたこと」がある。それは次のものである。「どんな人でも自分に持つて生まれたものがない人はいない。それを粗末にしないところから出発することこそ、年幼い人たちのつとめではあるまいか。」個々の子どもたちの考え方や感じ方を生かし、それぞれの子どもたちの持ち味や個性を育てていくことが大切である

ということである。これは、藤村が教師や子どもたちに向けて綴り方の適切な書き方に触れて述べたことばであるが、綴り方の教育だけではなく教育全般に通じる原点であるように思われる。

しかし、現代の学校教育はこの原点からだいぶ離れたところで行われることが多いのである。例えば、学校で教えられる「学校知学力」をどれだけ記憶したかを競い

あう点数獲得レースがすぐに思い浮かぶ。ひとところ「受験学力」ということが社会問題化したことがある。それは、記憶と再生に頼らざるを得ない知識であり、試験が終われば無意味となる知識であり、生きることには無縁の手荷物のような知識であると批判された。国際教育到達度評価学会は、1960年代からほぼ15年ごとに小・中・高校生の数学と理科の学力

に関する国際比較調査を実施してきたが、その結果が示すところによれば日本の生徒の点数は常に世界のトップクラスであるものの教科の好悪度(好きか嫌い)に關する結果は調査国中の最低に位置づけられてきた。日本の小・中・高校生は、試験問題に即答するためのテクニックを身につけることが「勉強」であると錯覚しているのではないかと疑われてもしかたない。問題の意味をじっくりと考えることは受験学力には必要なたというとなのであろうか。

これには幾つかの要因が複雑に絡んでいるであろうが、1960年代に推進された人的能力開発政策下での学校教育の能力主義的再編ということを描像することができると思う。それによって学校が学力競争社会の性格を強めたと思われる。また、このことと並行して、1970年代半ばに高校進学率が90パーセントを越え、大部分の子どもたちが長期間にわたって実社会から隔離された学校に囲込まれるようになり、現実の生活や実社会との直接的な関係を意識する機会が少なくなったこともそれに拍車をかけたと思われる。

学校で知識を教えられればよいといういわば教育の形骸化とでもいうべき性格が強まり、本来、自発的な活動であるはずの子どもたちの「学び」がますます衰弱してきたと思われる。

来年度以後、学校のカリキュラムに導入される、子どもたちの主体的な問題解決学習を軸として展開される「総合的な学習の時間」が現在の日本の硬直した学校教育を変えていく契機になればと期待しているのである。

私の講義日誌

2001年11月15日(木)2限
金融論(04生は金融システム論)

担当 三井 哲



の平日くらいに5万円くらい借りて給料日かその翌日くらいに返して来るのというのが、一番の上客だそうだよ。仮に金利30%で5万円を5日間借りても利息は200円くらいにしかならないんだから、だから、パーゲンで良い品をみつければ、サラ金で借りちゃう、というOLが結構多いらしい。サラ金にとつては、たった200円の利益といつても、数がまともなれば、立派な収益源だからね。「地下鉄の出口でサラ金のティッシュを配っているのを見たことがあると思うけどあれは、適当な出口に立っているんじゃないんだよ。出た先に、一流企業がたくさんある出口だけで配っているんだよ。」だから、サラ金に行つて、「何でうちをお知りになりましたか?」と聞かれたとき、「駅でもらったティッシュ」というのが一番いい答えで「スポーツ新聞」と答えると、ろくに貸してもらえないらしい。」という具合に、

ひとしきりサラ金の話をしてる間は、寝る人もなく、話を聞いていますが、本題に戻った途端に、机にうつおせになる学生が出てきます。しかし、今日は「寝かせてやらないぞ!」と、貸出金利の話は早目に切り上げ、抜き打ちテストをすることにしました。前期にFDでアンケートをした際に、「出席点をとってほしい」という希望が結構多く、そういう要望にも少し応えてやろうと思つていたので、シラバスに「普段の受講態度を成績に20%程度反映する」と書いていたので、「何かしなければ!」と思つていたので、

問題は、1問目は裏書きの形式に関するもので、先週の講義の説明を聞いていれば簡単に答えられるもの、2問目は銀行の貸出の種別を問うもので、教科書をそのまま転記すればすむので、1、2問目とも授業に出ていれば、案に満点が取れるものです。しかし、意外に答案作成に手間取る学生もいたため、今日は、テストを回収したところで終了となりました。

(みついきとし 商学部教授)

まず手形が発生する経緯を説明し、次に手形割引や手形貸付を説明しました。

今週は、その続きで、消費者ローンです。始めに、「貸出金利は臨時金利調整法によつて定められた上限よりもずっと低い水準に設定されたプライムレートを基準に適用されている。サラ

金は、臨時金利調整法よりもっと高い利息をつけているが、これは、貸金業規制法というもので、認められていないからだ」と切り出しましたが、学生たちは、いつものように無表情で、反応がありません。

「ところで、サラ金の一番上客はどういう人だと思ってるのう」と手を挙げて言つて「あらん。」と話を転じると、手を挙げる人はいませんが、注意がこつらに向かっています。「上場会社のよ

うな、しっかりした会社のOLが給料日



金融の講義で取り扱う内容は、銀行が取り扱っている業務、商品を知っている人は、比較的簡単だと思うと思います。それで、毎年4月に講義を始める時には、学生諸君に「銀行に行ったことがある人」といって挙手をさせていますが、半分も手が挙がりません。挙げた人の大半は、バイトの手当が振り込まれる通帳を作りに行き、あとはそのお金を引き出しに行くというもので、また、ごくわずかな人から、「外貨両替の経験がある」という答えが返ってきます。自分の学生時代をふり返つても、札幌オリビックの記念硬貨を両替してもらったときに並んだ時と、就職試験を受けたときぐらいです。そんなものかもしれないですね。そんな学生に、抽象的な銀行や金融の機能をくどくど説明しても、興味がわくはずがないので、できるだけ具体的なイメージが持てるように心がけています。

先週は、銀行の融資業務がテーマだったので、商手や為替手形のコピーを渡した上で、

「E.S.S.」とは、英語を使ってさまざまな活動をするサークルです。主な活動内容としては、6月に行われるショートブレイコンテストや12月に行われるドラマフェスティバルがあります。共に愛知県の各大学が集まりそれぞれの発表を行っていくというもので、ショートブレイでは特に新入生を対象としており、初めてやる人にドラマの楽しさを知ってもらうために企画されているものです。ドラマフェスティバルは1年間の成果を出しきる場でもあり、本格的なドラマをやり出す。ドラマは最低限のルールを元に「型」にはめられず自分たちの思うように作り上げていきます。演出、音響、照明、セットなども自分たちでやる訳ですから、それぞれの個性があふれたドラマが出来上がります。

英語で演劇をやると聞くと難しそうと思うかもしれませんが、確かに英語という点で最初は戸惑いもありますが、みんな英語が好きなので昼休みや授業の空き時間などを利用して発音やコミュニケーションの仕方など勉強しています。

演劇の面ではいろいろな劇団の芝居を観に行ったり、レクチャーを行って演出効果の研究をしたり、表現の仕方を学んだりしています。また、他大学との交流も盛んで、夏には合同合宿を行います。この合宿で、普段は



E.S.S.

自分の大学内だけではなく、他大学の人も一緒にミーティングを行い、意見交換をしたり、一つのドラマを創るという事も行います。

練習は厳しく何回も壁にぶつかり悩み、挫けそうになり、意見が食い違う事も多々ありましたが、大会前には時間が足らず遅くまで徹夜で作業する事もありました。しかし、みんな好きな事なので苦痛を吐くことなく一生懸命取り組みました。こうして迎える本番は、とても感動的で今までの苦労も忘れてしまいます。

私は、この「E.S.S.」に入ってから1年ですが、この1年で普段の大学生活では体験する事のできないようなことを経験してきました。それは仲間と協力して一つのものを作り上げていくことの苦労や喜び、自分を表現する事などです。私はこのサークルを人間的に大きく成長していくことができると思っています。

(外国語学専攻英米語科1年 丹羽美穂)

文化会

シリーズ
Circle短信

体育会

新入生の皆さん御入学おめでとうございます。何をやっていいかわからない人、とりあえず部活に入ってみてはいかがですか。

さて、「日本拳法」と聞いてもどんなものかわからない人がほとんどでしょう。日本拳法とは、手にグローブをはめ、面をかぶり、刺をつけます。好きなように打ち合うことができます。その上蹴つてもよし、投げてもよし、関節技もよし、とルールがあつて殆どないような実践的格闘技です。

日本拳法はこれまでとてもマイナーなスポーツとして扱われてきました。しかし最近ではPRIDEやK-1などといった格闘技人気により、その強さが格闘技界で認められてきました。プロボクシングの元世界チャンピオン渡辺二郎も

学生時代に日本拳法を始め、それからボクシングを始めています。現在のK-1のレフェリーも日本拳法の師範です。このように世界に通用する格闘技として認められています。

日本拳法は大学生からでも充分追いついたり、追い越したりできます。これから急速に発展していく格闘技です。新入生の皆さん、せっかく新しい環境に入ったわけですから何か始めようという。何か打ち込んで、一生の思い出を作ることにはとても素晴らしい事です。ちなみに、わが日本拳法部は昨年、中部地区で三位になりました。練習は厳しい時もありますが、とてもよい経験、よい思い出となります。

日本拳法部は随時、部員を募集しています。学年は問いません。練習は防具を付け、楽しく安全です。少数精鋭なので即レギュラーになれます。体が大きい小さいとか、力が強い弱い関係ありません。それなりの戦いが用意されているのが日本拳法なのです。一緒に全国大会に行つて勝てるチームを作りましょう。待っています。

(経済学部4年 宮林祐樹)



日本拳法部

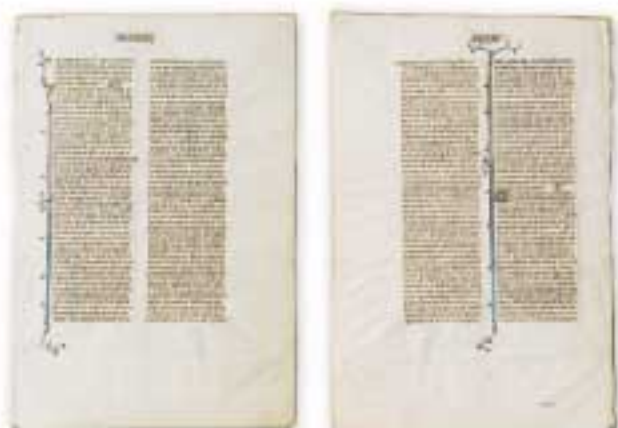
チャペルのかたすみで④

「聖書…ネヘミヤ記を 含む零葉」について

下の写真は、2001年11月9日に

木村光伸学長が寄贈された「聖書…
ネヘミヤ記を含む零葉」表・裏で、
実物は20×29cm1250年頃イングラ
ンドで制作された羊皮紙聖書の断片
です。古い、羊皮紙等に手書きされ
た書物が美術品として評価され、一
部分しか残っていないもの、1冊全体
では購入者がみつからないものをば
らばらにしたものが「零葉」と呼ばれ、
その1枚を額装した物が販売され
ていますが、これもその一つです。完全
なものであれば旧約聖書だけで約600
頁になるでしょう。

某洋書店から見計らいで持ち込まれ
たのを見て色々調べている内に、これは本
学に置いておく意味が有るのではないか
と思い、学長に推薦した所、「私のポケット
マネーで買おう」と気前良く購入して下
さったのですが、以下、この1枚の断片につ
いて紹介してみよう。



1頁46行2段組で、当時のキリスト教
会の公用語である「ラテン語」で書かれて
いる。表頁左欄5行目にローマ数字で「IX」
と書かれ6行目の行頭に5行分の長さで
「1」とそれを飾る鳥の模様が書き込ま
れており、裏頁右欄23行目には「X」と書
かれ次に2行分で「S」とそれを飾る鳥模
様が書き込まれている。これがこの書の章
の最初の単語の頭文字であることを示し

ており、この1葉は、ネヘミヤ記8章
17節から10章28節が書き込まれて
いることがわかる。

(一)聖書を写し、綴じ分ける方法は古くから色々
と考案されていたが、基本的に現在も受け継がれ
ている旧約の写本分写法は紀元前にシナイ山で
パトリスタス、後のシナイ山でパトリスタス、
パトリスタスは11世紀にパトリスタス、パトリスタス
により、導入された「聖書断片小」土蔵型。

尚、裏頁欄外の文字は次の葉の
最初に続く文字のメモである。

さて、その聖書の本文は、皆さん
の手許にある聖書を読んで頂ければ一
目瞭然だが、「応機略」を紹介しよう。
パトリスタス補遺(BC586-538)
の終りにペルシャ王キエロスがイスラ
エル人に対し帰還許可と神殿建設
許可の勅令を発したため、多くの人が
が祖国へ帰還したが、周辺民族の妨
害を受けた。これに対し祭司エズラ・王宮
給仕役ネヘミヤの指導で城壁の修復・神
殿の回復を実現させた。この完成の祝いの
時に「モーセの律法の書」を大衆の前で朗
読させた。この書が「モーセ五書」(旧約聖
書の初めの部分)と言われるもので、この時、
これを信仰の基本とする宗派「ユダヤ教」
が成立したとされる。(エズラ記1章・ネ
ヘミヤ記8章)彼らは、創世期アブラハム

山田直義
(キリスト教センター)

の時代、出エジプト・カナン定住・バビロニア
捕囚時期を振り返り、常に神の恵みの内
に在ったにも関わらず、それに逆らい続けた
民族の歴史を悔い、新たな思いを持って神
の律法に従う誓約を行ない捺印をした。
(ネヘミヤ記9・10章)そして、部族長及び
部族民の1割がエルサレムに定住して街を
守ることとし、城壁を奉獻し、神殿の維持・
民族の純粋性の維持を決定した。(ネヘ
ミヤ記11・13章)115年前(1887)
アメリカ人宣教師によって設立され、「敬
神愛人」の建学の精神の下キリスト教主
義学校を標榜して来た名古屋学院から
出発し、負債問題・「大学紛争」・法人分離・
学部増設・大学院設立等いくつもの山や
谷を経て、間もなく40周年を迎えようと
している名古屋学院大学の現状について、
特に学長選出に当りクリスチャンである
事を義務付けた所謂「クリスチャン条項」
の撤廃・寄附行為に「理事の選任にあつ
ては、半数は福音主義キリスト教信者で
あるように努めなければならない」と定め
られながらの現実等を見て、この「主なる
神に対する懺悔と誓約の聖句」を役員室
の机の上に据えて思いを巡らす必要がある
と考えるのは私の個人的な思い入れに過
ぎないのだろうか。

2001年度 課外活動報告

2001年度に課外活動で著しい活動成果をあげた団体と個人に対して学生部長表彰が行われました。団体表彰の部で、体育会系11団体、文化会系1団体が表彰を受けました。特にスキー部、馬術部、硬式野球部は3年連続して受賞しております。文化会系ではE.S.S.が中部学生英語劇で、ベストダンシング&ムーブメント賞を受賞して、学生部長表彰されました。

個人表彰の部では、43名の学生が表彰されました。彼らは、優秀な成績を修めていることはもちろんですが、所属するクラブの原動力ともなっています。



課外活動成績優秀者 学生部長表彰

団体表彰

○剣道部 第24回東海女子学生剣道優勝大会……………3位 ○ゴルフ部 中部学生ゴルフ秋季対抗戦……………3位 ○スキー部 第46回中部日本学生スキー選手権大会 男子(1部昇部)……………1位 第46回中部日本学生スキー選手権大会 女子……………2位 校父宮杯 第74回全日本学生スキー選手権大会 男子(全日本2部昇部)……………1位 第22回東海学生基礎スキー選手権大会 女子王座決定戦……………2位 ○水泳部 中部学生選手権水泳競技大会……………3位 ○バドミントン部 東海大学バドミントン選手権大会(1部昇部)……………1位 ○馬術部 第36回中部学生馬術競技大会 中馬車二重走行……………2位 ○E.S.S. Nagoya Intercollegiate The 41st English Drama Festival……………ムーブメント賞	○硬式野球部 愛知大学野球春季リーグ戦……………3位 ○サッカー部 東海大学サッカーリーグ戦(1部昇部)……………2位 ○卓球部 東海学生卓球春季リーグ戦……………3位 ○バレーボール部 東海大学男女バレーボールリーグ戦 春季大会(1部昇部)……………1位 ○日本書話部 中部学生書法選手権大会 男子……………3位
---	---

個人表彰

空手道部 宮澤健一(経済4年)・中村健平(経済2年)・堀真由子(経済1年) 硬式野球部 岸山貴希(経済1年)・高井誠(商1年) ゴルフ部 平井伸幸(経済4年) 少将専攻部 谷田政志(商4年)・伊藤純(経済4年)・木上健太郎(外国語4年)・藤田孝文(経済3年)・白崎裕子(外国語2年)・根本真(外国語2年)・小寺優子(経済2年) 準硬式野球部 土呂秀(経済4年)・内倉貴(商2年) 水泳部 水野博幸(経済4年) バドミントン部 安藤雄造(経済2年) スキー部 清水なほ(経済3年)・花井香奈(経済01.3卒業)・宮本重夫(経済01.3卒業)・長澤邦典(商4年)・吉田祐一郎(経済01.3卒業)・田中洋平(経済01.3卒業)・吉田慶司(商3年)・前田祐信(経済2年)・橋崎裕也(経済2年)・赤川裕隆(経済3年)・青藤裕司(経済3年)	卓球部 藤田尚典(経済3年)・白木千尋(経済1年) バスケットボール部 山城貴志(経済3年)・鈴木信吾(経済2年) 馬術部 中橋孝志(商4年) ボクシング部 伊藤剛(経済2年)・佐藤英太(商2年)・大村忠(経済4年)・井戸大輔(経済3年)・中野利和(商2年)・穴井正樹(経済3年)・若原久久(経済1年) 陸上競技部 三原秀樹(経済2年) E.S.S. 小林恵理子(外国語3年) 金魚すくい同好会 飯田貴文(外国語3年)
---	---

2001 本学の動き

この1年

- 4月** ●春学期開始、大学開講式(4/1) ●入学式、新入生学生生活オリエンテーション(4/2) ●企業経営特別研究「東海地域のベンチャー企業動向」<講師:東海総合研究所 常務 上野允久氏>(4/18)
- 5月** ●通信制大学院入学式(5/3)
- 6月** ●留学生別科フィールドトリップ(知多・伊勢)(→8日(金)まで)[6/6] ●企業経営特別研究「企業における知的財産戦略」<講師:ヤマザキマツク顧問 栗 健氏>(6/13) ●第38回NGUチャペルコンサート<演奏者:ケンブリッジ聖マルコ教会オルガニスト ジョナサン・ジョンズ氏>(6/16) <特別講演「日本人の心に響くキリスト教―道徳的視点とゆんだ日々から―」><講師:遠藤順子氏> ●留学フェア・留学報告会(→28日(木)まで)[6/26] ●父母会役員会・総会(6/30)
- 7月** ●留学生別科修了式(7/13) ●オープンキャンパス(7/21) ●英語教育セミナー「Concepts in Intercultural Communication for Teaching EFL」<講師:ジョージア大学教授 ダンケル氏>(→27日(金)まで)[7/23] ●企業経営特別研究「日本経営品質賞について―経営戦略としての経営品質推進」<講師:日本IBM経営品質推進委員長 番匠哲次氏>(7/25)
- 8月** ●親子陶芸教室(→5日(日)まで)[8/4] ●父母懇談会(松本、岐阜)、AO入試 体験入学(→21日(火)まで)[8/18] ●オープンキャンパス(8/24) ●父母懇談会(浜松、金沢)[8/25]
- 9月** ●父母懇談会(岡山、津、彦根)[9/1] ●9月卒業式、留学生別科入学式(9/11) ●大学院通信課程第1期入試(9/16) ●秋季期開始(9/21) ●父母懇談会、大学院修士課程第1期入試 経済学専攻・英語学専攻・中国語学専攻(9/22) ●大学院博士前期課程第1期入試 経営政策専攻(9/29)
- 10月** ●創立記念日(10/15) ●商学部開設10周年・大学院開設5周年記念シンポジウム「企業活性化と人材育成」(10/17) ●AO入試、編入学試験<指定校・一般1次>(10/20) ●高校生英語スピーチコンテスト(10/28) ●留学生別科フィールドトリップ(山・川・湖・金沢)(→31日(水)まで)[10/29]
- 11月** ●第37回大学院(→11月4日(日)まで)[11/1] ●陶芸教室つくり<大学祭協賛>、在学生による大学説明会<名学大祭企画>、ホームカミングデー<大学同窓会主催>(11/3) ●推薦入試<指定校・スポーツ>(11/17) ●推薦入試<一般>(11/23)
- 12月** ●スピーチコンテスト<英語・中国語>(12/5) ●手話講演会、学生部長表彰(12/12) ●クリスマスチャペル(12/18) ●留学生別科修了式(12/20) ●市民クリスマス礼拝・キリスト降誕祭(12/25)
- 2月** ●一般入試<前期A方式(経済学科・政策学科・商学科・中国語学科)>・前期B方式(英米語学科)>[2/1] ●一般入試<前期A方式(経済学科・政策学科・商学科・中国語学科)>・編入学試験<指定校・一般2次>・特別入試<外国人留学生・海外帰国子女・社会人>[2/2] ●一般入試<前期A方式(経済学科・政策学科・商学科・中国語学科)>[2/3] ●一般入試<前期A方式(英米語学科)>・前期C方式(経済学科・政策学科・商学科・中国語学科)>[2/4] ●大学院修士課程第2期入試 経済学専攻・英語学専攻・中国語学専攻[2/9] ●大学院博士前期課程第2期入試 経営政策専攻[2/16] ●大学院博士後期課程入試 経営政策専攻・通信課程第2期入試[2/17] ●一般入試<後期>[2/27]
- 3月** ●卒業証書・学位記授与式(学長表彰)[3/15]

堀教授、小野教授が 最終講義

2002年3月で定年退職される堀孝彦教授(経済学部)と小野経男教授(外国語学部)の最終講義が開講され、多くの学生や教職員が受講しました。

堀教授は1986年に経済学部教授として就任。本学共通教育の倫理学を担当されるとともに6年にわたり図書館長として図書館の充実に努められました。



小野教授は1993年に外国語学部教授として就任。英米語学科の英語学概論等の専門教育を担当されました。また、1997年に設置された大学院外国語学研究科の初代研究科長や外国語教育研究セ



ンター長、図書館長も歴任されました。このほか教職課程の村田貞雄教授(経済学部)も定年を迎えました。本学では5年間教職課程の充実に尽力いただきました。

学長表彰を11名に 授与

●経済学部 経済学科

相場 太、伊藤理恵、福田拓郎、西本光宏、山田隆史

●商学部 商学科

桜井公平、岩田孝子、大城良枝

●外国語学部 英米語学科

井村祐子、長友 潤

●外国語学部 中国語学科

吉野晴美

なお、2001年3月卒業生、修了者数は次のとおりでした。

●学部

経済学部……………488名

商学部……………364名

外国語学部……………166名

中国語学科……………57名

英米語学科……………57名

中国語学科……………57名

経済学部……………7名

経済学部……………51名

経済学部……………7名

経済学部……………51名

経済学部……………7名

経済学部……………51名

経済学部……………7名

経済学部……………51名

経済学部……………7名

経済学部……………51名

キャンパス環境が ますます充実

●HILL'S MALL

思星館1階にコンビニエンスストア「Hill's Mart」が開店しました。清涼飲料、菓子類、カップめん、パンなどのほか化粧品、洗剤なども扱っています。



●栄光館のバリア

学生のみならずの憩いの場として栄光館のロビーを改修し、テーブル、椅子(90席)のほか飲料自動販売機を設置しました。冷暖房完備。もちろん禁煙です。



●合同教室との連絡通路

六合館2階から合同教室(八教室)へ車椅子でも移動できる連絡通路が設置されました。これで六合館、合同教室のすべてに車椅子で行くことができるようになりました。

2002年度 父母懇談会ご案内

開催日	会場
8月24日(土)	浜松会場(浜松名義ホテル)
	岡山会場(ホテルニューオカヤマ)
	松本会場(ホテルブエナビスタ)
8月31日(土)	金沢会場(金沢都ホテル)
	津会場(ホテルグリーンパーク津)
	岐阜会場(ホテル330グランド岐阜)
9月 7日(土)	彦根会場(グランドデュークホテル)
9月28日(土)	大学会場

2002年

4月～5月

行事予定

4月

- 1日(月) 入学式[大学院・学部・留学生別科]
[栄光館]
学生生活オリエンテーション
- 2日(火) 学部・学科ガイダンス
新入生歓迎パーティ
クラス別キャンパスツアー
履修登録(2年以上)→10日まで
- 3日(水) 新入生健康診断(経済・商)
パソコン配布(経済)
- 4日(木) 新入生健康診断(政策・英米・中国)
パソコン配布(商・英米・中国)
- 8日(月) 奨学金説明会(学生部)
- 8日(月) 履修登録
～10日(水)
- 9日(火) 新入生歓迎チャペル
[キリスト教センター]
- 10日(水) 資格講座ガイダンス
[キャリアセンター]
- 11日(木) 授業開始
- 12日(金) 新入生歓迎チャペル
[キリスト教センター]
- 27日(土) 大学院オープンキャンパス
～28日(日)
- 30日(火) 臨時休業
- 下旬 留学フェア
[国際交流センター]

5月

- 1日(水) 臨時休業
～2日(木)
- 3日(金) 大学院通信教育課程入学式
- 23日(木) 2・3年生健康診断
～24日(金)

履修関係書類配布

401-404教室

3月28日(木) 05生 10:00～11:00
04生 13:30～14:30

3月29日(金) 03生以上
10:00～11:00

履修書類配布後に学部ガイダンスを実施します。
(経済:C教室、商:A1教室、外国:A2教室)
学部ガイダンスでは履修登録のほかに全学を情報
ネットワークで結ぶ「キャンパスコミュニケーションシ
ステム(CCS)」のガイダンスがあり、ノートパソコン
が必要です。必ず持参して出席してください。



風:佐藤勤教授(図書館前)



katashi: 神田実助手(日本庭園)



造像の華: 水谷たき教授(希望館3階)

2001年度父母会卒業記念事業は、
愛知県立芸術大学教授などの制作に
よるモニュメント3基で父母会田口会長
をはじめ役員のみなさんの出席のもと
に12月18日本学チャペルにおいて開
式が執り行われ、引きつづきモニュ
メントの設置場所において除幕式が行われ
ました。

2001年度父母会卒業記念事業 モニュメントを受贈

	英語部門	中国語部門
最優秀賞	坂本彩香 (外4年)	西野亜矢子 (外1年)
優秀賞	山本あゆみ (外4年) 志治泰行 (外1年)	石川結実子 (外1年)
敢闘賞	今川理英子 (外3年) 新川博子 (外3年)	青木宏高 (外2年) 中村友子 (外1年) 長坂 藍 (外1年)

12回目となった外語センター主催の
スピーチコンテストは英語・中国語の
同日開催となり、12月5日(水)に第
1ラウンドが開催されました。入賞者は
次のとおりで、賞状と副賞の図書券
が授与されました。

英語・中国語スピーチ コンテスト入賞者

講座名	講座名	講座名
TOEIC600点対策	初級システムアドミニストレータ	日本語記3級
TOEIC対策	一般旅行主任者	日本語記2級
英検2級	通関士	マウス検定(excel)
ビジネス能力検定3級	福祉住環境コーディネータ2・3級	マウス検定(word)
ビジネス能力検定2級	宅地建物取引主任者	マウス検定(power point)
秘書検定2級	法検定3・4級	色彩能力検定3級
フライトアテンダント・グランド ホステス入門コース	行政書士	色彩能力検定2級
フライトアテンダント・グランド ホステス進修コース	ビジネス実務法検2・3級	経済学検定試験
	販売士3・2級	

2002年度 資格講座案内



表紙写真／希望館夜景

希望館には、キャンパスホールがあり、学生課、教務課、キャリアセンターなど学生サービスセンターとしての機能を備えている。日没の早くなる10月から照明が一変と映える。

学校法人 **名古屋学院大学**

発行日 ■ 2002年3月20日

編集 ■ 名古屋学院大学 広報委員会

発行者 ■ 名古屋学院大学 学長室広報課 愛知県瀬戸市上品野町1350
〒480-1298 TEL 0561-42-0317 (広報課) ISSN 0915-8901

本学の情報はホームページでもご覧いただけます

<http://www.ngu.ac.jp/>